

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「発見・挑戦・創造」のもと、一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助・指導を行う。

[発見：新たな自分の発見、挑戦：新たな自分への挑戦、創造：新たな自分の創造]

2 学校の特徴

本校は、普通科Ⅰ部・Ⅱ部、総合福祉科Ⅰ部からなる昼間の定時制単位制高校である。前期・後期の2期制で、進路や興味・関心に合わせて多数の科目群から授業を選択でき、他部での履修や通信制科目の受講も可能である。また、ボランティア活動や就業体験、各種検定試験、高卒程度認定試験などを弾力的に単位認定し、多様な学びをサポートしている。

少人数クラスにより、一人一人の個性や能力に応じたきめ細かな指導を展開しており、支援の必要な生徒に対しては、SCやSSW、通級指導担当教員をはじめ外部機関とも連携し、学校全体で情報共有しながら支援を行っている。

進路状況については、生徒数が少ないため年度により傾向に差はあるが、進学と就職の生徒数はほぼ同じである。就職は、ほとんどが県内であり、地域で活躍・貢献している。

また、高校生と社会人が一緒に学ぶ異世代交流型の共学講座では様々な相乗効果があり、地域における生涯学習の拠点となっている。

3 学校の現状と課題

本校の生徒は、概して素直であるが、様々な理由による不登校経験者や特別な支援を要する生徒、家庭に諸事情を抱える生徒などが混在している。そのため学力や学習意欲、進路意識、価値観、生活習慣、コミュニケーション能力等において、その実態は多様である。

すべての生徒に、将来たくましく未来を拓き、社会で輝く人材となるための力として、「自ら学び考える力・自律し自立する力・他者と共生する力・健やかな心身」の育成を図り、将来にわたって自分らしく、たくましく自立していくための支援を推進していきたい。そのために、多様なニーズに応える教育課程の編成を工夫するとともに、少人数授業や習熟度別授業、ICT活用も含めた授業のユニバーサルデザイン化を継続し、意見や質問を発信しやすい授業づくりを推進する。また、進路希望実現に向けた支援（JSTとの連携・キャリアアッププロジェクト）を継続し、総合的な探究の時間やインターンシップなどを通して生きる力を育てる。さらに、生徒主体の学校行事や部活動、ボランティア活動などを通して、自他を理解し、人との関わりを学ぶ機会の創出を工夫し、卒業後の自立につながる経験を積ませるとともに、丁寧な個別面談やSC、SSWと連携したきめ細やかな教育相談を推進し、個に応じた教育支援を充実させる。

また、生涯学習校として社会人と共に学ぶ授業や18歳成人を見据えた主権者教育を通して、すべての生徒が将来、生き生きと自分らしく暮らせるウェルビーイングの向上を目指していきたい。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方針及び計画	
1	学習活動	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、科目において、生徒一人一人の主体的な学びの姿勢と学習課題の解決に向けた思考力、判断力、表現力を育成し、学習内容の確実な習熟を目指す。
	重点 1	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習内容の理解・定着と学習意欲を向上させるため、ICT機器の活用や互見授業、校内外研修などにより生徒主体のわかりやすい授業と質問しやすい雰囲気作りを図るとともに、ユニバーサルデザイン化などの授業改善を推進する。 ② 生徒の多様な学習意欲・習熟度を把握し、学習指導法の改善に活かす。また、各教科間の連携を図りながら、生徒一人一人の能力・適性・進路希望等に応じた学修の機会を提供する。
2	学校生活	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会的な規範やマナーを遵守する態度を育成し、安全意識の高揚に努める。 自己の健康状態に関心を持ち、積極的に健康の保持増進に努めようとする能力・態度を育成し、各自の生活リズムについて考えることができるよう支援する。
	重点 2 重点 2	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常生活における基本的な生活習慣の確立や、社会生活のきまりについて、主体的に考えさせるよう努める。 ② 外部講師による安全教育や、車体検査・交通安全指導の実施、校内でのスマホ指導により、安全意識と適切なスマホ利用に対する意識の高揚を図るとともに、自転車等の乗車マナーやスマホ使用マナーの向上に努める。 ③ 外部の専門家による講座を通して、心と体の健康状態について関心を持ち、自己理解を深める。 ④ SC、SSW、巡回指導員、通級指導担当教員との連携を深め、個々の教育相談の充実を図り、職員の情報共有を進め、生徒理解に努める。
3	進路支援	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 将来の自己実現に向かって、意欲的に学校生活を送ろうとする態度を育成し、進路実現に向けてきめ細やかな指導を行う。
	重点 3	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 適切な進路目標を設定し、進路実現に必要な能力の育成を図るため、進路希望調査による実態把握と「進路ノート」を活用した進路情報の提供と蓄積を充実させる。また、キャリア探究や面談を通して自己理解や社会理解を深めるとともに、特別な支援が必要な生徒への配慮も含め、きめ細やかな支援を行う。 ② 職業研究、インターンシップ、進路特別講座等において、関連機関や就職支援教員（JST）との連携により、個々の職業観の育成を図る。

4	特別活動	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を培う。 ・ 読書に親しむ機会を増やし、豊かな人間性と情操を育てる。
	重点4	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、内容や運営方法を常に工夫し、生徒の満足度が高まるように努める。 ② 学校行事への積極的な参加と役割の自覚を促し、生徒が自主的な企画・運営を経験することで、一人一人に達成感を持たせる。 ③ 部活動では、生徒の積極的な加入と自主的な活動を促し、心身の成長につなげる。 ④ 多様な生徒のニーズに応じた読書活動を支援するため、購入希望図書の把握や図書館ニュースの発行などにより、本校図書館の学習環境や機能を充実させる。 ⑤ 生徒目線の企画や生徒主体の委員会活動、教科・HRとの連携により、読書習慣の定着を図り、図書館の有効な活用を進める。
5	その他 総合福祉科 学習活動 及び 保護者・地 域との連携	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合福祉科では、地域で活躍する介護人材の育成に向け、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させる。 ・ 保護者や地域の施設との連絡を密にしながら、地域との連携や交流を推進する。
	重点5	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との福祉交流活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門技術者による講座を通して社会福祉への理解を深めさせる。また、将来の進路目標や自らの在り方生き方について考えさせる。 ② 福祉関連の進路目標を早期に確立させ、専門科目への意欲的な学習へ導き、生徒同士の学び合いや発表会を通して学習の達成感を持たせつつ介護技術の定着を図る。 ③ P T A、同窓会、地域諸団体等との連携を深めることで、学校行事やボランティア活動へ保護者・生徒が参加できるような環境づくりに努める。 ④ オープンハイスクールの実施や、ホームページ、フライヤー等を活用して、本校の教育活動を広く紹介する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 となみ野高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	①学習内容の理解・定着と学習意欲の向上	②授業改善の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について理解・定着の乏しい生徒が見られる。 学習・授業に対する意欲の乏しい生徒が見られる。 	
達成目標	①学習・授業アンケートで「学習・授業において、自分の考えや疑問を伝える努力をした」と回答した生徒の割合 85%以上	②互見授業アンケートで「生徒が質問しやすいよう授業改善に取り組んだ」と回答した教員の割合 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 授業における生徒とのコミュニケーションを深め、質問しやすい授業の工夫を目指す。 適切な課題を準備し、着実な取り組みにつなげることで学習内容の定着を図る。 生徒によっては、通信制講座の活用など、多様な学習機会を確保できるようにする。 タブレットの効果的な活用等、授業改善に取り組み、授業のユニバーサルデザイン化のさらなる推進を目指す。 互見授業等を通して教員相互の意見交換を密にし、授業改善を図る。 観点別評価の導入により、指導と評価の一体化を図り、生徒が主体的に授業に臨めるようにする。 	

令和6年度 となみ野高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	①安全意識の高揚、適切なスマホ利用に対する意識高揚	②心と体の健康状態について関心を持ち、自己理解を深める
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時や休み時間にスマホを操作しながら移動する「ながらスマホ」の生徒が多く見られる。事故の被害者にも加害者にもなり得る状況である。生徒自身が「ながらスマホ」の危険性を十分に理解し、安全意識を高める必要がある。また、授業時間以外に「スマホ」が手放せない生徒が多い。「スマホ」の長時間利用による健康被害も周知しながら、校内での友人とのコミュニケーションの時間を大切にするように意識させたい。 望ましい生活習慣について考えることが少なく、それを知っていても行動に移せないために、体調不良を訴え遅刻や欠席をする生徒が見られる。加えて、不登校経験があったり、学習経験が乏しかったりするため、自信が持てず、人間関係を築くのに時間がかかる生徒も多い。自分の長所や短所等の自己理解を深める必要がある。 	
達成目標	① スマホ等適切利用に関するアンケートで、各自の設定目標に対する自己評価において、目標を達成した割合 70%以上	② 生徒向け研修「心と体の健康講座」に対する事後アンケートにおいて、「心身の健康保持に対する意識が高まった」「自己理解を深めることができた」と回答した割合 いずれも70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒対象に交通安全教室を実施し、「ながらスマホ」の危険性について理解を深めるとともに、命の大切さと交通ルール遵守への意識を高める。 自転車通学者に対しての車体検査で、ヘルメット着用の呼びかけを個別に行う。 スマホに関する各自の目標を設定し、定期的なアンケート調査により生徒の実態を把握し、適切な利用意識の高揚を図る。 事故を未然に防ぐため、日々の場面毎の声かけ、全校集会や年次集会等の様々な機会を通して普段の行動を振り返る場面を設け、安全意識の定着を図る。 日々の場面毎の声かけ、ポスター掲示や動画、ユーチューブ等を活用し、スマホの使用マナーや「デジタルデトックスの意義」について考えさせる。 	

令和6年度 となみ野高等学校アクションプラン		－3－
重点項目	進路支援	
重点課題	適切な進路目標を設定し、進路実現に必要な能力の育成を図る	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒が見られる。 ・ 進路実現に必要な基礎学力および社会性が不足している生徒が見られる。 ・ 進路目標が多様であり、特別な支援を必要とする生徒も見られる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率 100%	② 1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次75%以上 2年次90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、学校・企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的に情報を蓄積することにより、目標とする進路を明確にする。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けるよう指導する。 ・ 基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。さらに、進路決定者においても進学・就業意欲を継続させ、進路先への円滑な移行を目指す取り組みを行う。 ・ 特別な支援が必要な生徒には、年次をはじめ通級指導担当教員や保健厚生部と連携し、生徒の適性に十分配慮した指導・支援を行う。 	

令和6年度 となみ野高等学校アクションプラン		－4－
重点項目	特別活動	
重点課題	① 学校行事への積極的な参加と達成感	② 図書館の有効な活用
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人とのコミュニケーションや集団活動そのものに苦手意識を持ち、学校行事への参加に消極的であったり、参加できなかつたりする生徒が見られる。また、生徒数の増加に伴い、一人一人への配慮がより必要となっている。 ・ 生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景に「読書離れ」が進んでいる。読書を始めた「活字を読む」ことの習慣化や質の向上を図るための支援が必要である。 	
達成目標	① 主要学校行事の事後アンケートで、「積極的参加」「達成感」等の4件法評価を実施し、「よい」と回答した割合 90%以上	② 1年間の貸し出し冊数 全校生徒の60%以上が一人1冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、学校行事への積極的な参加を促す。 ・ 生徒会が主体となり行事の企画・運営を行う。 ・ 生徒自身の学校行事における役割の自覚を促し、一人一人が達成感を持てるような配慮や働きかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの生徒の興味・関心やニーズに合わせて図書を選定する。 ・ 図書委員会による「図書館ニュース」の発行やイベントの企画など、来館者増加のための取り組みを行う。 ・ 図書の展示方法を工夫し、読書への興味・関心を高める。

重点項目	その他：総合福祉科学習指導	
重点課題	専門科目への意欲的な学習	
現 状	「地域で活躍する人材の育成」を指導目標としている。日々の授業の中で衣食住や介護の知識・技術を定着させたり、家庭・地域生活や福祉のあり方を考えたりすることに努力を要する生徒が見られる。	
達成目標	①授業及び地域との交流活動を通じて福祉分野への興味関心が深まった生徒の割合 70%以上	②衣食住の学習・実習を通して、自分の生活をよりよくするための知識・技術が身についた生徒の割合 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 地域での交流活動に参加することで、生徒の福祉分野に対する興味関心を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定に挑戦することで、家庭分野における基礎的な知識・技術を身に付ける。
	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業で学習した専門科目の知識・技術を地域での交流活動に活かすことで、今後の専門科目の学習に意欲的に取り組めるようにする。 活動報告会を実施し、今後の専門科目への意欲向上や技術向上に役立てる。 授業内で校外での活動を意識した挨拶・礼儀等を意識して指導する。 個別の配慮を要する生徒に対する指導について工夫する。 	